

感染症発生動向調査委員会報告 7月

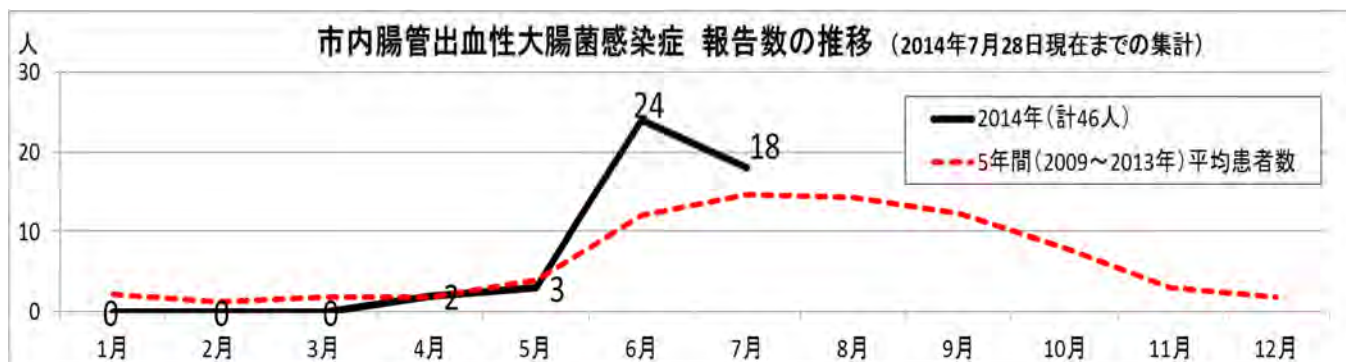
《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 伝染性紅斑が流行しています。
- ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握疾患 7月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	18件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
レジオネラ症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	6件	梅毒	2件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件	風しん	1件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計18件（O157VT1VT2 10件、O157VT1 1件、O157VT2 3件、O157VT型不明1件、O111VT1VT2 2件、O121VT2 1件）の報告がありました。原因については現在調査中ですが、いくつかの事例では家族内での2次感染が見られています。本症の今年の報告数は、6月は過去5年間の平均を上回り、7月も7月28日現在の集計時点で上回っています。過去5年間の推移によると、8月から9月にかけても報告数が多いことが考えられ注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。家庭内での2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。



＜レジオネラ症＞肺炎型6件の報告があり、現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症6件（経口感染2件、同性間性的接触による感染1件、異性間性的接触による感染1件、感染経路等不明2件）の報告がありました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞AIDS3件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。そのうち、異性間性的接触による感染が3件、同性間性的接触による感染が1件でした。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞90歳代の報告が1件ありました。

＜侵襲性髄膜炎菌感染症＞70歳代の報告が1件ありました。患者は集団生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞70歳代の報告が2件あり、いずれも予防接種歴は不明でした。

＜梅毒＞無症候期の報告が2件あり、1件は同性間性的接触による感染が推定され、もう1件は感染経路等不明でした。

＜風しん＞30歳代女性の検査診断例の報告が1件あり、予防接種歴は不明でした。

定点把握疾患 平成26年6月23日から平成26年7月27日まで

(平成26年第26週から平成26年第30週まで。ただし、性感染症については平成26年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

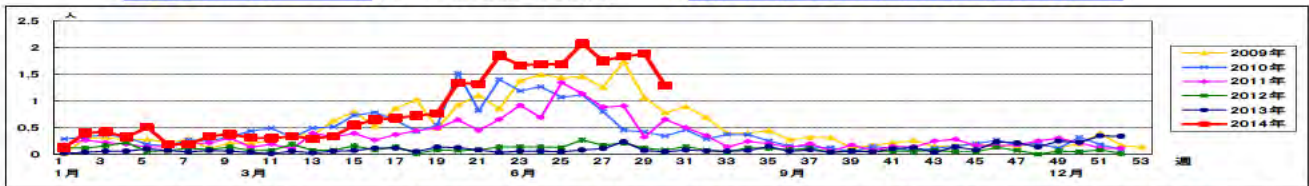
第26週	6月23日～6月29日
第27週	6月30日～7月 6日
第28週	7月 7日～7月13日
第29週	7月14日～7月20日
第30週	7月21日～7月27日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

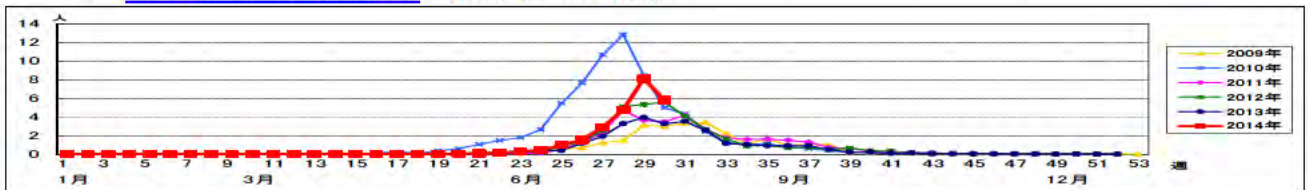
<伝染性紅斑>第26週に市全体で定点あたり2.08と警報発令基準値(2.00)を上回って以降、警報レベル(警報解除基準値1.00)が継続しています。ただ、第30週は1.29と減少傾向に転じました。区別では9区で警報レベルとなっています。

◆[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所) ◆[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)

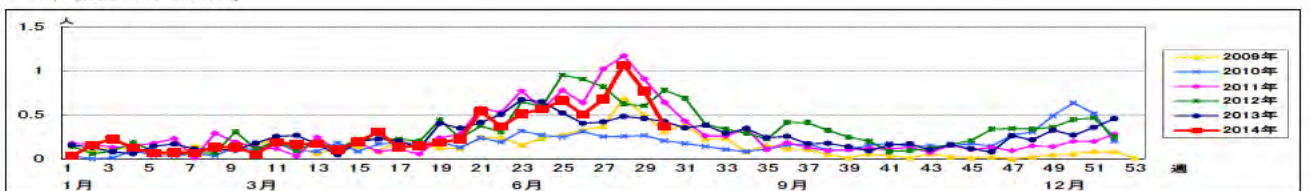


<ヘルパンギーナ>第27週から急激に報告が増加し、第29週は8.10と警報発令基準値(6.00)を上回りました。第30週は5.81と減少に転じましたが、警報レベル(警報解除基準値2.00)が継続しています。区別では10区で警報レベルとなっています。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。

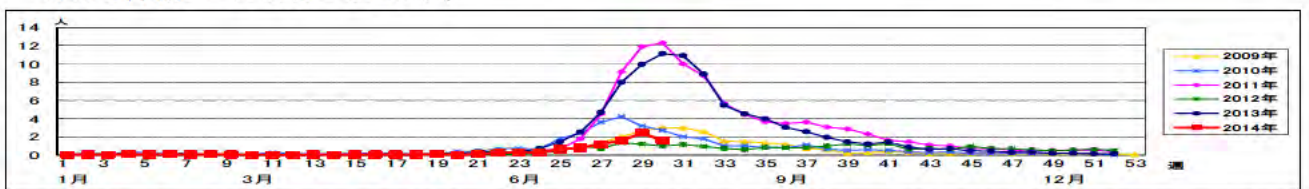
◆[ヘルパンギーナについて](#)(横浜市衛生研究所)



<咽頭結膜熱>第30週は市全体で定点あたり0.37と減少しましたが、保土ヶ谷区1.20で警報レベルが継続しています。



<手足口病>第30週は市全体で定点あたり1.62と、前週から減少しました。ただ、磯子区8.75、港南区4.40で警報レベルとなっています。



<性感染症>6月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が20件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第26週0.75、第27週0.00、第28週0.33、第29週0.00、第30週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第26週0.50以降、第30週まで報告はありません。クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>6月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点37件、基幹定点13件で、眼科定点4件、定点外医療機関からは5件でした。

8月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株7件と遺伝子検査42件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(7月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	R S 感 染 症	胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル ペ ン ギ ー ナ	血 球 貧 食 症 候 群	熱 性 け い れ ん	耳 下 腺 炎	不 明 熱	発 疹 症	流 行 性 角 結 膜 炎
アデノ NT*												1
アデノ 1型	1											
アデノ 2型											1	
パラインフルエンザ 1型	1											
パラインフルエンザ 3型	5	3	1						1			
R S			1									
ヒトメタニューモ		2										
ヒトパルボ B19											1	
ライノ	3	2										
コクサッキー A 2型						1						
コクサッキー A 4型	4					5				1		
コクサッキー A 5型		1			1	2			1			
コクサッキー A 9型								1				
コクサッキー A10型						2						
エコー 11型				1								
パレコ 1型				2		1						
パレコ 3型							1			1		
合計	13	8	2	1	1	10	1	1	2	2	1	0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

7月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から1件、基幹定点から10件、その他が31件で、腸管病原性大腸菌(O63:H6)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16)、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O157:H-、O121:H6、O145:H-、O26:H11、O111:H-)、サルモネラ(*S.Chester*)、*Campylobacter jejuni* が検出されました。その他の感染症は小児科から3件、基幹定点から3件、その他が18件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(7月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2014年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管病原性大腸菌		1			1	
腸管出血性大腸菌			29		1	41
腸管毒素原性大腸菌		1			2	
サルモネラ			1		25	4
カンピロバクター	1			1		1
NAGビブリオ						1
不検出	0	8	1	2	35	15

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2014年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		2		2
	T4	2		6		
	T6			6		
	T11			1		
	T12			6		
	T B3264			2		
	型別不能			3		1
B群溶血性レンサ球菌			5			17
D群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			12	1
<i>Legionella pneumophila</i>			2			6
インフルエンザ菌			1			5
肺炎球菌			3	1		63
<i>Neisseria meningitidis</i>			1			1
結核菌						4
百日咳					1	
その他		1	1		9	3
不検出	0	0	5	3	1	25

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】